

機密

軍令部

次長

第一班

川島

山田

第二班

第四班

江崎

柴川

藤

森

高屋

副官

村松

吉川

參事官

四十年二月廿二日

起案

二月廿三日

發付

大臣

次官

軍務局長



局員



官房機密第七號
今日午五時
海陸軍祝典
表列也

每頁

0060

之其運次政府諸君之定案相成此
左記諸事可成請各報告相成此及
各官以中意之

四十年二月廿日

少佐

第二艦隊司令官

海軍省

- 一、各國艦隊及艦艇、行動操作教練勤務等之類、新章之事項
- 二、軍港其他諸要港、特殊之設備等、其是則等
- 三、儀式禮式、被制被裝等、新章之事項
- 四、各國旗章、禮砲等、新章之事項

0061


五項
其他緊要上誌ノ事項

海軍

0062

秘

大臣

副官 

 參事官

發行所
方州

四十年六月廿二起案

次官 

軍務局長



局長





中案

宮内省
第三十七號
旅波中氣燭乙玉回航之関之別録目錄書寫

0063

方心考考算卷之十

四十年六月二十日

後

各段の寸法

各段の寸法

各段の寸法

各段の寸法

各段の寸法

目録

一 直中右左の寸法七寸五分一厘

二 直中右左の寸法七寸五分一厘

三 直中右左の寸法七寸五分一厘

四 直中右左の寸法七寸五分一厘

五、五日午後十時發之と

六、六月廿七日(日)廿一日

好乙女を幸ふに下るる事なり

七、六月廿七日(日)廿一日

六月廿七日(日)廿一日

九、六月廿七日(日)廿一日

(望)

海軍

0065

送第七七號

米國ハムプトン・ロージ、萬國陸海軍祝典参列軍
艦筑波千歳二艦獨逸國、キールへ寄港希望
ノ件、付在本邦獨逸國大使ヨリ別紙寫ノ通照
會有之ヨリ有、其ノ何分ノ義法回示ニ成交共
段申進矣也

明治四十年四月二十九日

外務大臣子爵林董

海軍大臣齋藤實毅

(別紙)

以書翰波啓上ハ陳ト貴王政府ハ今收能波千歳ノ
二艦ヲ獨逸王へ派セシメテ企圖ヲ為セラル、与伯林駐劄貴
國大使ヲ遣テ本使ノ政府へ通達シ、此等ハ此等ノ事
付本使ハ皇太后ノ御意ニ依リ、同陛下ノ
於カセラレテハ貴王軍艦ヲ「キール」海軍祭典 (Kiel Week)
ノ際同港ニ於テ迎フルヲ欣喜セラル、茲ニ陛下ト交ハ
連封ハ本使ハ若シ何事内ヲ貴王政府へ傳達ス可キ様
勅命ヲ受ケルハ素直ニ承上ト對シ、何分何分
被テ煩シ交有申述テ本使ハ茲ニ重テ陛下ト向テ表敬
意候 敬具

千九百零七年四月二十五日

外務大臣 林 子爵 閣下

0067

(三)

電信譯文

伯林癸四十年四月二十五日
東京着 二十六日

林外務大臣

井上全權大使

第四三號

本官ハ近日我艦隊カ、ウヰルヘルムス、ハーフエンニ来航スヘキコト
ヲ獨逸政府ニ通知セルニ獨逸皇帝ハ六月十八日ヨリ六月廿
五日ニ至ル、キールニ季節ニ際シ我艦隊ノ、キール港ニ来航セム
コトヲ望マセラレ陛下ノ御名ヲ以テ右ノ招待ヲ帝國政府ニ傳
フヘキ旨外務大臣ニ勅命アリ尚陛下ハ全港ニ於テ我艦隊ヲ
歓迎スルヲ深ク欣悦アラセラル、趣外務大臣ヨリ通知シ来レリ
本官ハ伊集院中將ニ前述ノ趣意ヲ電報スヘク今中將ニ於テ右ノ
招請ニ應スル様行動スルノ訓令ニ接セムコトヲ希望ス目下ウヰ
ルヘルムス、ハーフエンニハ改築工事中ナリ念ノ為メ附言ス

(三)

電報

左ノ通第二艦隊司令長官ニ傳ヘヨ

獨逸皇帝ハ本年六月十八日ヨリ二十五日ニ至ルキール季節ニ際シ我艦隊ノキール港ニ來港センコトヲ望マセラレ帝國政府ハ陛下ノ御名ニ於テ右招待ヲ其向ヲ經テ受領セリ尚陛下ハ同港ニ於テ我艦隊ヲ歡迎スルヲ深ク欣悦アラセラルニ趣ナリ就テ其艦隊ノ行動ヲ適宜差繰リ前記招待ニ應スル如ク行動スル様取計ヒ其豫定ヲ速ニ報告スヘシ本件在英枋内大佐(電訓)ニ關係ノ向ヘ通知セシメタリキール運河ハ通航得ズ見込ナシモ其便否ニ就キ又ツバルトシテ通航スル場合ノ水先案内等コトニ關シテハ在獨ハ代大佐ト相當連絡ヲ保ツテ要ス尚ツウキルヘルラスバーフェンハ自下改築工事中ナル由参考ノ為附言ス關係書類ハ大使館氣附テ郵送ス

明治四十年五月一日

海軍大臣

在米

谷口大使館附武官 允

0069

(四)

電報譯

六月

二十四日午後十二時五分、キール發電
二十五日午前五時三分、東京着電

海軍大臣宛

伊集院第二艦隊司令長官

二十一日着後直々ニ海召艦ニ伺候本職兩艦長幕僚拜謁
 仰付ラレテ午後鎮守府司令長官園遊會ニ於テ大使本職
 ヲ海接見特ニ長時間ノ海懇話ヲ賜リ二十三日海召「ヤット」
 競争ノ間大使本職ハ代大佐海陪乘船内ニ於テ午餐海
 陪食仰付ラレテ午後ハ「ソリ」親王同妃殿下ヨリ茶話會ニ
 召サル今二十四日午前兩艦ノ海親臨艦内海巡視ノ後士
 官室士官以上ヲ召サレ優渥ナル勅語ヲ賜リ我天皇陛
 下ノ海健康ヲ祝シテ杯ヲ舉ケケラン兩艦ハ特ニ海軍
 真ヲ下ニ賜ハル午後一時海召艦ニ於テ大使本職兩艦長
 竹下參謀ノ午餐海陪食仰付ラル細ハ後ヨリ

0070

(五)

電報譯

六月

二十四日午後十時キール發電
二十五日午後二時十五分東京着電

海軍大臣宛

第二艦隊司令長官

本隊當キール入港ニ就テ、獨逸國皇帝陛下ニモ極メテ清
 滿悦ニ清思召サレ前電ノ通り特殊ノ清優遇ヲ賜ハル本日
 本艦、臨清ノ節親シク本職ニ清写真ヲ下シ賜ハリ清召
 艦ニ午餐清陪食後兩艦長八代大佐、赤就鳥二等竹
 下參謀、王冠二等兩艦衛兵司令、各々赤就鳥四等
 勲章ヲ授ケ賜ハル海軍大臣以下各艦隊并ニ鎮守府
 司令長官其他ヨリ誠意懇遇ヲ受ケツ、アリ

(六)

宮内省
外事課往第一四八號ノ二

帝國軍艦筑波キール軍港、寄航ニ際シ獨逸國皇帝陛下

0071

下ヨリ別紙甲號ノ通り電報有之云ニ付乙号ノ通り
親電御送相成云間為御参考字及御送附候
也

明治四十年六月廿六日

宮内省外事課長山内勝明

海軍省副官村上格一殿

甲号

日本皇帝陛下

陛下ノ装甲巡洋艦筑波ノ歸航ニ際シ朕ハ陛下カ全艦ヲ
キーラーヴラッヘニ参列セシメラレタルコトニ對シ眞實ニ

0072

感謝ヲ表セト欲ス朕ハ朕カ曾テ見タル最良ノ巡洋艦ニツ
キテ陛下ヲ奉祝ス筑波ハ陛下世界最強ノ巡洋艦ナリ
ト朕自ラ深ク之ヲ信スナリ伊集院中將ハ陛下ノ友誼アル
厚意ヲ齎セルコトヲ朕ニ告ケタリ陛下ノ將率ノ軍規ノ嚴
肅ナル朕ヲシテ深キ感慨ヲ懷カシメタルコトヲ陛下ニ向
ヒテ賀セントス陛下ノ健康ヲ祈リ茲ニ陛下ノ將校ト共
ニ杯ヲ舉グ

ウイールヘルム

乙号

朕ハ陛下ノ御懇篤ナル電報并ニ陛下カ特ニ軍艦筑
波ニ答訪セラレタルカ如キ朕カ武臣ニ賜ヒタル殊遇ヲ

0073

感謝ス彼等亦陛下ノ行幸ニ対シ感激スルナラシ朕ハ陛下ニ謝意ヲ表スル如斯

午九百七年六月二十五日午後五時

御名

伯林
獨國皇帝陛下

0074

(七)

電信

伯林發四十年六月廿五日 右〇一五
東京着〇〇 廿六日前四三三

林外務大臣

井上全權大使

第七一號

獨逸皇帝陛下ハ今回我艦隊ノ訪問ニ對シ頗ル御
満足ノ御様子ニテ本日筑波ニ御臨幸ノ節
天皇陛下ニ於テ我軍艦ヲ御派遣アラセラレタル
御厚意ヲ感謝遊ハサレムカ為メ全艦ヨリ直ニ御
親電ヲ發セラレタリ 右御親電ハ一應本使へ親
御示シノ上御發電アリタリ

(八)

四十年六月廿六日發電

在獨

井上大使宛

林外務大臣

0075

第三二號

貴電第七一號ニ関シ本月二十五日鄭重ナル御答電ヲ發セラレタリ又

天皇陛下ヨリ左ノ御謝辞ヲ獨逸國皇帝陛下へ申上グベキ旨閣下へ勅命アリタルニ付直ニ謁見ノ上言上アリタシ

(御謝辞畧ス)

尚ホ貴官ハ同時ニ帝國政府ノ名ヲ以テ獨逸皇
帝陛下及同國海軍官憲等カ山本大將及
伊集院艦隊ニ與ヘラレタル殊遇ニ對シ夫々
深厚ナル謝意ヲ表セララルベシ

(九)

電報譯

六月廿七日「キール」

大臣アテ

第二艦隊司令長官

今面ハ往復共「グレートベルト」ノ航路ヲ取り来ル
 廿九日出港 オステンデ、フラツシング、ニ寄港
 シプリマウスニテ 石炭補充 ブレスト、ホルド
 ー、ヴィゴ、リスボンヲ 經マルタニ於テ 石炭
 補充 ヴェニス、トリユステヲ 經テ 九月上旬
 ポートサイドニ向フ豫定

0077

副官

村松

吉川參事官

發付

六月廿八日

四十年六月廿八日起案

大臣

次官



軍務局長



局員



我邊系船係吉田中獨公皇弟

夏練宗

每頁

0078

鷹
法
算

下義東侯公武ノ招待ノ醫方全玉一ニ海
軍曲ノ先列ニ先ニシテ同艦隊ノ故地ヲ名
譽降下ニ付カニテ主ニ先ニシテ先ニシテ
ニ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ
ノ先ニシテ先ニシテ先ニシテ先ニシテ

又

0079

副官 村松

參事官

發付

年 月 日起案

村松

二月 廿日

大臣

次官

村松

官房第七八二號
今日 第二船隊 軍艦 飛皮 及 千歲
五龍 河 並 重來 利加 及 防 羅 巴 以 等

每頁

0080

一、如達セヨク火屬燃主計年米國
 政府ノ松浦之信曰國ウアセヨク
 一、如達セヨク火屬燃主計年米國
 政府ノ松浦之信曰國ウアセヨク
 一、如達セヨク火屬燃主計年米國
 政府ノ松浦之信曰國ウアセヨク
 一、如達セヨク火屬燃主計年米國
 政府ノ松浦之信曰國ウアセヨク

早于...
 ...

...

...

東京三編印行

軍禮記波乃千歳第...
記ノ通リニ...

禮部司合部

将官

亮

上長友及士友

将官

亮

将官

亮

准士官

亮

下士

亮

卒

亮

卒

亮

通款官亮名(佐官亮)

0082

軍 禮 子 歳	備 人	卒 人	下 士	准 士 官	長 官	尉 官	修 官	軍 禮 波	備 人
	老 四	六 四 老	老 四 六	老 四 六	五	五	十	八	八
				50	60	60	80	61	61
				14	14	14	4	4	4
				6	6	6	13	13	13
				14	14	14	4	4	4
				6	6	6	13	13	13
				14	14	14	4	4	4
				6	6	6	13	13	13

初官自令為官 五

尉官自令為官 五〇

准士官 五

下士 七四

卒 六

備人 十

明治四年二月三日

陸軍省

陸軍省

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

湖
宣

0085

七
八
二
七
八
二
七
八
二

精製

靈案

遣米船隊、酒肴料五百円

以下、船員、関船、津、経、外、及、道

接用、無、儀、持、参、上、等

明治四十年一月廿七日

海軍省別及

茶之類所別及

海軍

0086

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海

陸

（久保田納）

0087

一室 珍

道 米 於 臨 一 函 者

料 互 予 内 皆 已 解

一 市 河 皆 有 金 象

一 ~~持~~ 持 一 足 野 大 氏

持 一 予 在 皆 已 解

一 一 乃 諸 一 二 十 十 十 十

一 一 乃 諸 一 二 十 十 十 十

持 一 予 在 皆 已 解

予 在 七 百 年 氏

0088

（巻之四）

案

村格

吉

半上船隊海段千餘年、海能愈
東廿八日、東五、向合、格、宿、出、能、
趣、新、千、少、脚、カ、波、途、之、祝、ス、
為、大、海、所、目、録、之、通、之、宗、之、一、日、
海、船、呈、時、段、其、旨、可、格、而、外、記、
乃、之、及、其、旨、十、之、也、
明治三十四年二月廿六日

大医

第三船隊長官

0089

別紙

目錄

一 清海 兵部行

一 右軍統帥部

一 清海 武部行

右軍統帥部

但以上者以公簿人三望ん迄ふ事
十内ノ本館本館中取申由(維新)

0090

海軍大臣
大角岑生
實政



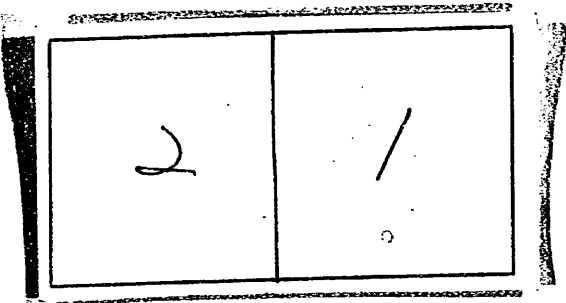
0091

海

第 二 般 送 丹 麥 領 事 館

0092

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

有后

奉經保築皮子茶

本國考通

表稅

一曰、法度

所、望

而情、

自了

致尤

下、

様抄

此

0094

0093

西帰し 華ふりし
自了 舟船の 船台

致光兄の 舟船
旗下一 向成り

橋抄の 建交丸

舟船の 舟

舟船の 舟

舟船の 舟

伊集院 舟

舟船の 舟

0094

飛波千早奉養院之院之
飛波船上之於子為也先
海軍志士演述ノ梗概



明治四十年二月辛亥

本艦隊ノ出立ニ臨ミ終ニ種子ト相見ニ
ル本古舟の長ニ堪らん所ナリ
當艦隊之回遠航ノ目的ハ米米令辰團
ヲアジニア等ハムト上ニ少ニ備見ニキ島國
海陸軍視典ニ参列スルヲ主トシ主方ヲ
派遣政米許港ヲ訪フニ先ニ種子ノ院ニ
係ル也ル所ナリ惟フニ米國ハ我開國ニ

陸し者も海軍志士情誼ヲ我宮也爾
 東房國トノ親交ニ益々敦キヲ加ヘ
 了り今やセーレタウニ於テ陸軍メテ英
 諸人民ガ要利加一恒久ノ強民ヲ開始セ
 ン紀念セカルニ祝賀ヲ傳フルニ際シ米
 國政府ノ起馬志士松浦ヲ次ケ我艦隊
 而カモ我國ニ於テ建送ヤ^在前^在初ノ大禮ヲ
 奉らん~~艦~~艦隊ノ海軍ヲ右西洋ヲ首ヲ
 米國軍岸ニ派遣セらん^轉見ル^轉和家
 多ク在り^本在^在度ノ廣^度模^模能
 小^小名^名ニ^ニテ^テ克^克榮^榮也^也大^大

起。

0096

予因今上御時之至貴他毛亦其重キヲ
 感スルモナリ 是以新皇御世ノ祝典
 ノニ止リ奉ル所来ノ他ノ諸侯ヲモ訪ヒ
 膳後ノ希國海軍ヲ列國環視ノ中
 ニ慕ハス死シテ今ノ諸子ハ皆吾國ノ
 地土ト自色ノ主場トシ能ク其職ヲ充
 ツル所ヲ遺憾ナク 征我交際ニ亦一層
 ノ益致シ加ヘ以テ我國光ヲ亮揚セリ
 トシ望ム
 茲ニ船隊ノ奉航ニ際シ御力ニ言及シ
 諸子ノ抱負ニ付テ併セテ長途航海ノ

0097

安部トシ子ノ健康トシ行

(25)

0098

村松

布成四一西海軍大五^の外務大五^の年文也

四〇三〇二五

軍集院海軍中將官歴ノ梗概ハ左 如シ

氏ハ嘉永五年九月三^日号(一八五二年)鹿兒
 島ニ生シ若冠政體維新ノ役ニ際シ
 王師ニ從軍シ明治四年(一八七一年)九月海軍
 兵學寮ニ入学同七年左衛門事件ニ當揚
 艦ニ乘但同十年西南ノ内乱ニ川村^年軍
 艦ニ出征功了^リ勲者考加^ル事ヨリ賜^フヨ守^リ
 英國商會^ノ命^ニ應^ジ英國太平洋艦隊^ニシテ
 台號^ニシテ艦海士^ノ職^ヲ執^リ南米^ニシテ
 一國^ノ執^リ親^シ十五^年月英國海軍
 大尉^ニ免^ル状^ヲ受^ケテ向^テ能^ク返^ル事^ニシテ

同大校へ入り翌年七月水雷科卒業ニ為ル

状アリ

十三年七月

右在英中自海軍中尉に任じ浪遊者を勉勵
傳三船ノ武裝船ヲ作り同十三年七月海軍中尉
ニ進み浪遊船水雷長十年同船ニ乗出五年
七月同船ニ回着せり

十三年七月に海軍中尉に任じ浪遊者を勉勵
傳三船ニ武裝船ヲ作り同十三年七月海軍中尉
ニ進み浪遊船水雷長十年同船ニ乗出五年
七月同船ニ回着せり
如し 二十三年七月に海軍中尉に任じ浪遊者
を勉勵傳三船ニ武裝船ヲ作り同十三年七月海軍中尉
ニ進み浪遊船水雷長十年同船ニ乗出五年
七月同船ニ回着せり

(松永船)

以テ諸事兼テ功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

功ニ爲リ 功ニ爲リ 功ニ爲リ

(松永船)

接伴方ヲ奉事セリ

享和三年正月辛酉分二船隊ノ令長也

轉補^現ニ^現其^現族^現也

曰氏所有ノ^現部^現也

伊集院 功一 及 令 長 等

紐馬如の大津

英國 ナイト・コンゴリ、タカバ

バース

伊國 玉冠一考

暹羅國 玉冠一考

佛國 コンゴリ、タカバ

ナシヨラ、トリスレ、ヨシヨシ

白牛義國 赤松之飯付二也

徳五郎 赤松二也

(松永翁)

0104

第二艦隊司令長官海軍中將伊集院五郎
 氏、性沈毅果斷ニシテ海軍ノ學術ニ通曉シテ畫
 策籌謀ノ資~~ヲ~~以テ名アルノミナラス、技術ニ関シ
 テモ亦日本海軍ニ貢獻スル所尠カラス、同國海軍
 ニ在テ有數ノ將官タリ、今其略歴ヲ左ニ掲ゲ
 氏ハ嘉永五年九月廿七日(一八五二年)鹿兒島ニ生
 ル慶應二年(一八六六年)十四歳ニシテ鹿兒島
 藩海軍ニ入り、今三年陸軍ニ轉シ、林宗嗣^{藩警}
 衛トシテ上京シ、維新ノ役、伏見鳥羽ノ戰爭
 ヨリ、奥羽ノ野^見轉戦シ、會津落城マデ從軍
 シ、平定後、鹿兒島ニ歸リテ、引續キ軍隊ニ在リ
 明治四年(一八七一年)九月海軍兵學寮ニ入り

在學中今七年台灣事件、起ルヤ實地修
 業、爲メ雲揚艦、乗込ミ今九年、筑波
 乗込ミ明治十年（一八七七年）内乱ニ川村参
 軍傳令々使トナリ九州ニ出張シ賊軍、征討ニ
 與リ勇敢ヲ以テ稱セラレ功ヲ以テ特ニ勲六等
 旭日章ヲ賜ハル乱平クル、後運用航海砲術
 修業トシテ今十年十一月英國留學ヲ命セラレ
 翌十一年一月英國ニ着セリ尋テ翌十二年英
 國太平洋艦隊ツライアマフ乗組ヲ命セラレ十三
 年ヨリ航海士ノ職ヲ執レリ此、間南米ペリウ
 國トチリ國トノ戦況ヲ視察セリ越ヘテ十五年
 一月英國海軍運用砲術航海術卒業大尉
 一等免狀ヲ受ケ同艦ヲ退乗セリ而シテ英國ゲ

（教員録）

リンウヰツク海軍大學校へ入學う許サレ翌十六年六月
月(一八八三年)同校水雷科卒業二等免狀う受
ケタリ

右滯英中本國日本政府ヨリハ海軍中尉ニ任セラレ

(明治十五年即一八八二年十月二十七日)シガ引續キ滯英シ

シラスコラ奥形水雷監督ウ人命セラレ次ウ同國ニ於テ

建造ノ軍艦浪速高千穂等ノ兵器監督及其

他調査ニ任シタリ明治十八年六月(一八八五年)海

軍大尉ニ進ミ同年十二月浪速水雷長ウ人命セラ

レ十九年三月同艦ニテ英國ラ也設シ其六月日本

品海ニ歸着セリ

明治十九年七月參謀本部海軍部第一局課

員兼兵器會議々員ニ補セラレ二十一年五月參謀

本部ノ組織ヲ改メラレタル際海軍參謀本部第一
 局員兼兵部會議員ト爲リリシガ二十二年
 七月軍艦千代田回航委員トシテ英國派遣シ
 命セラレ二十三年十月十六日海軍少佐ト進ミ
 千代田副長トシテ二十四年一月同艦ニテ英國ヲ
 發シ四月横須賀ニ歸着セリ
 爾來常備艦隊參謀、海軍參謀部第二課
 員ヨリ軍令部第一局員兼技術人員議々
 員ト爲リ廿七年六月日清ノ交渉難局ニ赴ク
 ヤ韓國ニ出張シ命セラレ以テ第一局長心得リ
 兼務シ開戦後大本營海軍參謀官ト仰付
 ケラレ九月樺山軍令部長ニ隨行シ西京九ノ乘
 組ニテ戦地ニ赴キ今月十七日黃海ニ於テ清

國北洋艦隊ト海戰ニ參與シ二十八日廣島歸
 着シ引續キ帷幕、樞機、冬シ十二月七日海軍
 大佐、進ミ軍令部第二局長、軍令部第一局長
 長兼技術會議々負等、鞆岸シ二十八年四月
 大總督府ヲ戰地ニ進マラルヤ旅順ニ赴キ和成ル
 後功ヲ以テ功四級全賜勲章及勲四等旭日
 章並年金五百圓ヲ賜フ三十二年十一月十日
 軍令部次長心得、將官會議々負心得、技
 術會議々負ト爲リ三十二年九月二十六日海軍
 少將ニ進ミタリ

明治三十三年九月ニ至リ多年ノ研究ニ係ル候
 管ラ海軍ニ採用セラレ便益ヲ與フル故カウサルノ
 廉ヲ以テ勲三等旭日章及年金千圓ヲ賜ヒ同

年清國事變、関を功ヲ以テ勲二等旭日章
及金貳千五百圓ヲ賜フ

明治三十五年三月十七日常備艦隊司令官、轉
補シ浅間高砂兩艦ヲ率ヒ四月七日横濱ヲ發

シ英國皇帝皇太后兩陛下戴冠式参列トシテ
同國ニ航シ十一月八日横須賀ニ歸着セリ

明治三十六年九月五日海軍中將ニ進ミ軍令
部次長ノ要職ニ補シ尋テ三十七八年日露戰

役ニ於ケル大本營海軍幕僚トシテ帷幄ノ
重責ヲ列シ功ヲ以テ功一級金鷄勲章及勲

一等旭日大綬章並ニ年々金千五百圓ヲ賜フ
明治三十九年一月九日艦政本部長ヲ兼攝シ其間

英國皇族コンソルト殿下來朝ニ際シ接伴負テ奉セリ

(久保田印行)

明治三十九年十一月二十二日現職即第ニ艦隊

司令長官、轉補 セラレタリ

今氏ノ所有勲章等ヲ舉ケレハ凡ソ左ノ如シ

日本國

功一級金鷄勲章

勲一等旭日大綬章

英國

ナイト、コンマンダー、ラブ、ゼ、バース、

伊國

王冠一等

佛國

コンマンンドール、ド、ロルドル、ナショナル、

ド、ラ、レジヨンドノール、

白耳義國

レオポール 劍附二等

暹羅國

王冠一等

独逸國

赤鷲一等

小姓沈黙果樹...
...
...

...
...
中ノ後秀クナリ今也此歴ヲ九ニ揚リ

第二艦隊司令長及海軍中將伊集院五郎

氏ノ略歴有也

△慶應二年(八六二)
丁酉歳ニシテ鹿島藩
藩林禁閣登極トシ
テ上立リシ惟新ノ役
伏見島ノ戦事ヨリ
奥ノ野ニ移致シ
今津島ニシテ從
軍シテ平定後
鹿見島ニ歸リテ引
任ナリ

氏ハ嘉永五年九月廿七日(八五二年)鹿見島ニ
生ル明治四年(一七二一年)九月海軍兵學校ニ入
リ在学中明治十年(一七七年)ノ内乱ニ川村兼重
ヲ隨テ九州ニ出張シ賊軍ノ征討ニ与リテ功有
甚ク考旭日章ヲ賜ハル乱平ルニ後軍用
艦海佐術修善事トシ

明治十年(一七七年)ノ内乱ニ川村兼重
ヲ隨テ九州ニ出張シ賊軍ノ征討ニ与リテ功有
甚ク考旭日章ヲ賜ハル乱平ルニ後軍用
艦海佐術修善事トシ

英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年
英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年
英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年

英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年
英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年
英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年

英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年
英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年
英國太平洋洋艦隊ニ着セリヨ尋テ翌十二年

0113

レ
ワ
コ
フ
カ
シ
カ
シ
カ
シ

日艦ヲ退棄セリ而シテ英國ケリト宣フ
大學校ノ入學ヲ許セシ翌十六年五月(一八三三年)
日校水雷科卒業ニ考免状ヲ受ケタリ

右滯英中本國日本政府ヨリハ海軍中尉ニ
任セラシ(明治十五年即一八八二年十月三十一日)シガリ

後キ艦長ニシテ國ニ於テ建造ノ事ヲ派シ
テ各艦考ノ兵船是等及其他諸艦ニ任シ

タリ明治十八年六月(一八五五年)海軍大尉ニ進シ
同年十月浪連水雷科艦長ニシテ命セタリ十九年三

月日艦ニシテ英國ヲ往シ其六月日本海軍
着セリ

明治十九年七月在滯本印海軍部加高海軍
兵船會社ノ員ニ補セタリ二十年五月在滯

△廿七年其海り清
 文信紙の三封ヲヤ
 轉回ニ至ルヲ信ス
 以テ海軍費中心以テ
 業路ニ向テ後
 大なる海軍ヲ建官
 又俄伊白九月
 轉回ニ至ルヲ信ス
 以テ海軍費中心以テ
 業路ニ向テ後
 大なる海軍ヲ建官
 又俄伊白九月

引渡キ惟著拒成ニテ

七部ノ似像ヲ及メシクハ際海ノニ其際本都
 知内負面兵吾言散兵トありタリシガ二十二
 年七月ツヨク飛千代田回航事トシテ英國
 似連ヲ命セシ 二十三年十月十六日海ノ次
 依ニ進ニ千代田副長トシテ二十四年一月
 日龍ニテ英國ノ壳ニ四月括居成ニ帰
 着セリ
 爾來常滿航際參謀、海ノニ其際即知ニ
 課兵、言今即知ニ其負面技術ニ依テ之、
 了官即知ニ其長トシテ其、酸ニ補ニ其年事
 十有月七日海ノ次依ニ進ニ其今即知ニ其長
 了官即知ニ其長トシテ其、酸ニ補ニ其年事

△此の年四月大坂勢
は、つぎおぼやかしに上らるる中
に、折中を、
翌日旅取に、
殊に、後

東に其間日清戦後、
新清は上り、惟、
二、
功、
倉、
却、
負、
時、
三、
管、
凡、
三、

0116

三十一日
 西三出陣
 所又用也
 後

初二日也
 明徳三年五月
 二日補之
 指廣之
 冠武之
 治製之
 三十七日
 今部以長
 年日名
 療上之
 功一級

外之金千五百両ヲ賜フ
 三年如年下月日 陸軍大臣長ヲ免職
 之其間英國公使コニト 陛下奉朝
 之儀 協定之ヲ奉セリ
~~有~~ 三年九月十日 陸軍大臣長ヲ免職
 第一陸軍大臣長之 補補セリ
 今氏ノ所有 陸軍大臣長ヲ免職
 存好

日条

金鶴 陸軍大臣長

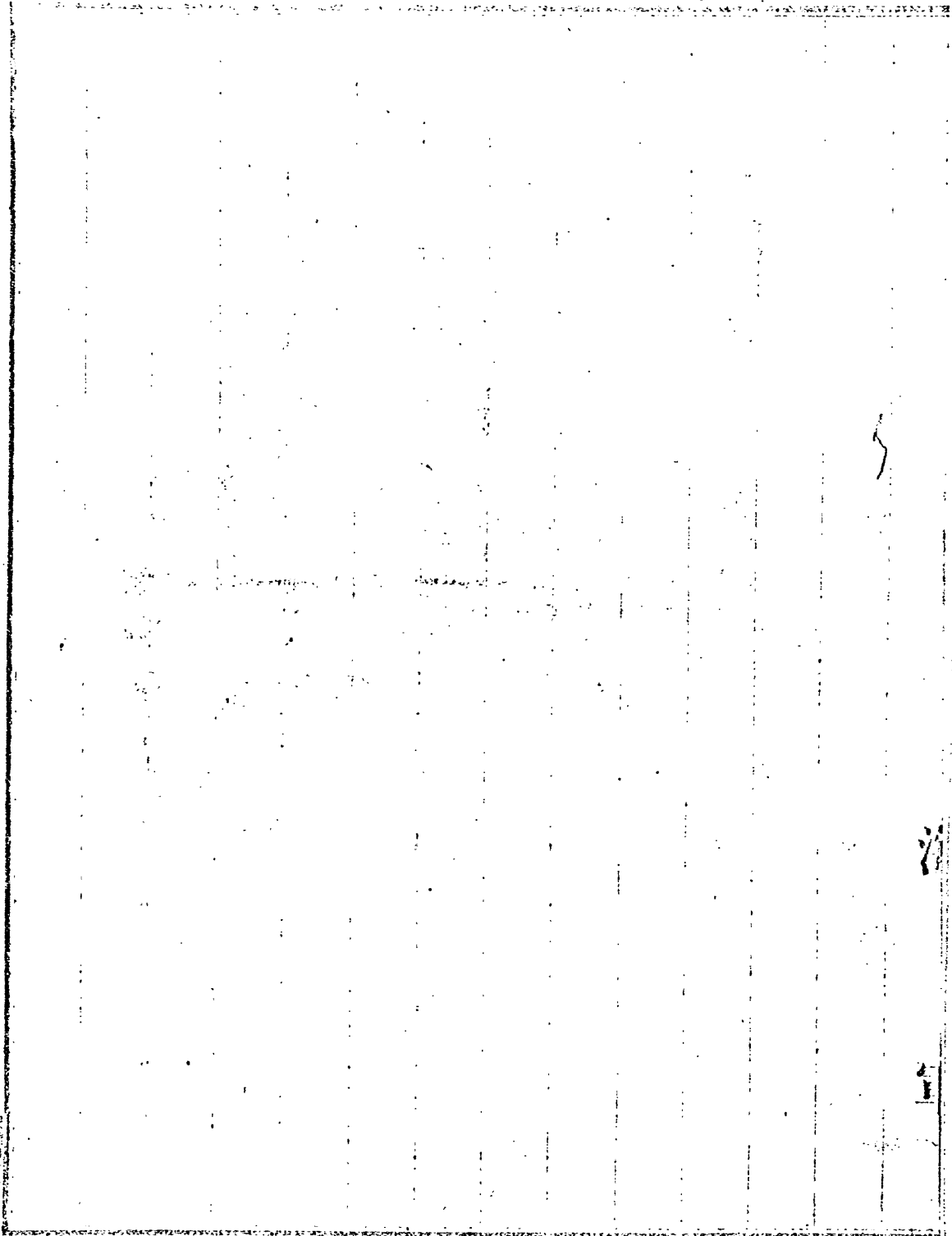
第一 陸軍大臣長

英

大正十一年九月廿八日

佛 王冠一
 白身 王冠一
 シヤム 王冠一
 コロドルド兄弟ナシヨ
 ドラレシヨドノ
 レオポルト二世

0119



安達

一

0120

嘉永五年丁酉年九月廿七日生

四年九月、長門郡長門郡子守人

十年三月、川村多門守之徳行 長門郡長門郡

十年三月、川村多門守之徳行 長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

十年十月、長門郡長門郡長門郡長門郡

0121

十三年十一月廿五日
知事の御手紙
御返事

御返事

十三年十一月廿五日

十三年十一月廿五日
御返事

十三年十一月廿五日
御返事

十三年十一月廿五日

御返事

十三年十一月廿五日
御返事

御返事

久保田納

0122

お中へ 年賀状、海へ郵で、お返

前書、お返

お中へ、お返

海へ郵で、お返

お中へ、お返

お中へ、お返

お中へ、お返

お中へ、お返

(15)

平五郎
平六郎
平七郎
平八郎
平九郎
平十郎
平十一郎
平十二郎
平十三郎
平十四郎
平十五郎
平十六郎
平十七郎
平十八郎
平十九郎
平二十郎

平二十郎
平二十一郎
平二十二郎
平二十三郎
平二十四郎
平二十五郎
平二十六郎
平二十七郎
平二十八郎
平二十九郎
平三十郎

平三十一郎
平三十二郎
平三十三郎
平三十四郎
平三十五郎
平三十六郎
平三十七郎
平三十八郎
平三十九郎
平四十郎

平四十一郎
平四十二郎
平四十三郎
平四十四郎
平四十五郎
平四十六郎
平四十七郎
平四十八郎
平四十九郎
平五十郎

平五十一郎
平五十二郎
平五十三郎
平五十四郎
平五十五郎
平五十六郎
平五十七郎
平五十八郎
平五十九郎
平六十郎

平六十一郎
平六十二郎
平六十三郎
平六十四郎
平六十五郎
平六十六郎
平六十七郎
平六十八郎
平六十九郎
平七十郎

平七十一郎
平七十二郎
平七十三郎
平七十四郎
平七十五郎
平七十六郎
平七十七郎
平七十八郎
平七十九郎
平八十郎

平八十一郎
平八十二郎
平八十三郎
平八十四郎
平八十五郎
平八十六郎
平八十七郎
平八十八郎
平八十九郎
平九十郎

平九十一郎
平九十二郎
平九十三郎
平九十四郎
平九十五郎
平九十六郎
平九十七郎
平九十八郎
平九十九郎
平一百郎

久保田納

0124

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十一日 午後 了らるる 長谷川 寛

三十七年一月廿七日 常陸守の御書

河内守 指原景春 御書

大内守 堀尾忠晴

英氣の御書

三十七年一月廿七日 御書

了の御書

カイトニシテ...

三十七年一月廿七日 御書

三十七年一月廿七日 御書

三十七年一月廿七日

三十七年一月廿七日

0126

芳子 聖徳太子 御宇

己卯

己卯 十一月

白鳥

レオポルド 御宇

伊右衛門

壬午 十一月

佛

正徳 十一月 十八日

(久保田納)

0128

我大使館付... 第五艦隊

村松

第五艦隊

海軍大臣 野村浩平

遺棄... 左記... 海軍大臣 野村浩平

司令長官

中將

伊集院 五郎

参謀

中佐

竹下 勇

参謀兼副官

少佐

野村 常村

参謀

大尉

山本 信次郎

通訳官

海軍少佐 豊島 定

豊島

定

0129

久保田印行

0130

軍艦筑波

艦長 副長 砲術長 航海長 水雷長兼分隊長 分隊長 分隊長 分隊長 分隊長

大佐 中佐 少佐 少佐 少佐 大尉 大尉 大尉 大尉 中尉

竹内 水村 三輪 関 竹村 佐水 高橋 鳥崎 安東 山本 足五 平太郎 修三 郁郎 伴吾 高志 節雄 保三 昌喬 泰洋 脩藏

少長
岡村吉晴
下

機関長
分隊長
分隊長
分隊長

機関大尉	機関大尉	機関大尉	機関大佐	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	中尉	中尉	中尉
杉	高津	市原	津久井	長谷川	前田	高橋	村上	瀬崎	堀	山本	植村	岡本
政人	黄微男	琢磨	平八	芳太郎	安負	雄三郎	正之助	仁平	悌吉	土岐彦	茂支	郁男

(久保田印行)

軍医長

主計長

機関少尉

塩谷

信武

機関少尉

真鍋

正男

機関少尉

在塚

喜友

軍醫中造

矢野

清史

大軍醫

山本

英忠

大軍醫

小林

英幹

主計中監

藤野

理吉

大主計

服部

邦光

中主計

淡輪

敏雄

分隊長 心得	分隊長	水雷長 兼分隊長	砲術長	分隊長	分隊長	航海長	副長	艦長
-----------	-----	-------------	-----	-----	-----	-----	----	----

軍艦千歳

中尉	中尉	中尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	少佐	中佐	大佐
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

合田	市來	廣瀨	村瀨	左近司	天野	森	人見	金丸	榑原	山屋
四郎	哲藏	哲	貞次郎	政三郎	大郎	初次	三良	清緝	忠三郎	他人

軍醫長		分隊長	分隊長	分隊長	機関長															
大軍醫	軍醫少監	機関少尉	機関中尉	機関大尉	機関大尉	機関大尉	機関少佐	少尉	少尉	中尉	中尉	中尉								
佐々木	田代	赤堀	戸田	松原	豊田	安住	大沼	豊田	福水	藤好	中村	畔柳								
喜右門	豊吉郎	研吉	信行	彦七	省一	龍太郎	貞次郎	百太郎	鐵之助	有年	三男三									

久保田印行

0136

主計長

主計少監 齋藤宗三郎
中主計 貝島得真

0137

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(久保田印行)

澤

皇

0138

Handwritten Japanese text at the top of the page, possibly a title or reference number.

0139

Handwritten mark or initials in the left margin.

List of officers,
 U.S.S. "Tsukuba"
 Armoured Cruiser, 13,750 tons, 14,000 H.P. (20,500 F.D.)
 Flag ship,
 Second Squadron.

Vice-Admiral Sir Goro Ijima, I.R.S., I.G.K., K.C.B., Commander-in-Chief.
 Commander Isamu Takeshita, ^{Senior} Chief of Staff.
 Lieut. Commander Count Tsunehiko Sano, Staff & Adjutant.
 Lieutenant Shinjiro Yamamoto, Staff.
 MR. Sadamu Fogoshima, Naval Instructor and Interpreter.
 Captain Heitaro Takenouchi.
 Commander ^{Go} Takeo Kimura.

Handwritten mark or initials in the left margin.

Lieut. Commandes	Shuzo Miura,	Chief Gunnery officer
"	Ikuro Seki,	Chief Navigating officer
"	Bango Takemura	Chief Torpedo officer
"	Takashi Sasaki	
Lieutenant	Setuzo ^{WO} Takahashi	
"	Yasuzo Torisaki	
"	Masataka Ando	
"	Taiyo Yamamoto	
Sub-lieutenant 1 st Cl.	Shuzo Adachi	
"	Ikuwo Okamoto	
"	Shigewo Uyemura	
"	Tokuwo Yamamoto	
Sub-lieut. 2 nd Cl.	Teikichi Hori	

0140

(松本稿)

(2)

0141

"	Jinpei Sasaki
"	Shonosuke Murakami
"	Yuzaburo Takahashi
"	Yasusada Mayeda
"	Yoshitaro Hasegawa
Engineer Captain	Heihachi Tsukui
Engineer Lieutenant	Takuma Ichihara
"	Kimino Takatsu
"	Fokuichiro Goshizaki
"	Masato Sugi
Eng. Sub-Lieut.	Nobutake Yenza
"	Masao Manabe
"	Yoshitomo Arizuka
Fleet Surgeon	Kiyoshi Yano

Surgeon Hidetada Yamamoto

" Miki Kobashi

Fleet Paymaster Rikichi Fujino

Paymaster Kunimitsu Hattori

" Toshiro Awawa

0142

(松本館)

(3)

0143

List of Officers,

A. S. J. M. S.

"Chitose"

~~Cruiser, 4,992 tons (H.P. (15,714 P.D.))~~

Captain Tanin Yamaya

Commander Chūzaburo Sakakibara

Lieut.-Commander Kiyotsugu Kanamaru, Chief Navigation Officer.

Lieutenant Saemuro Hitomi

" Hatsuji Mori

" Rokuro Amano, Chief Gunnery Officer.

" Seizo Sakonji, Chief Torpedo Officer.

" Teijiro Murase

Sub-Lieut. pt. Cl. Tetsu Hirose

"	Tetsuzo Ichikawa
"	Shiro Ota Goda
"	Miwazo Kuroyanagi
"	Utoshi Nakamura
"	Tetsunosuke Fujiyoshi
Sub-lieut.	Hyakutaro Fukumoto
"	Seijiro Toyota
Engineer Lieut-Commander	Rintaro Onuma
Engineer Lieut.	Seiichi Anju
"	Minoru Toyoda
"	Hikoshiichi Matsubara
Engineer Sub-Lieutenant 1 st Cl.	Nobuyuki Toda
Engineer Sub-lieut. 2 nd Cl.	Kentrichi Akabori

(54 木 新)

(4)

Staff Surgeon	Toyokichiro	Tashiro
Surgeon	Kiyemon	Sasaki
Staff paymaster	Sozaburo	Saito
paymaster	Tokuma ^{mal}	Kaijima
	Tokuma	

0145

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(松水箱)

古今

0146